



山行報告

逗子・神武寺から鷹取山コースを歩く

堀内弘栄

20140515 逗子・神武寺から鷹取山コースを歩く
09:32JR 逗子東を出発 踏切を渡って北に向かう。角に約標高
9.6m とある。高度時計 10m にセットした。
0958 京急神武寺駅への分岐点スナップ。／h85m。



JR 東逗子駅<神武寺本堂>京急神武寺駅分岐点で (L)ルートには山火事
注意看板がある。(R)JR 東逗子駅<神武寺本堂>京急神武寺駅分岐点標
柱を眺る。

境内周りにはかながわの美林 50 選・神武寺の森だ。緑が豊かた。



神武寺境内の様子!。(L)かながわの美林50選・神武寺の森の標識。(C)
神武寺周辺の岩隙植物群落案内なかからしている // 模式図を眺る。(R)先
ず イワタバコに関心を持った。

(C)神武寺周辺の岩隙植物群落。逗子市指定天然記念物。(平成 5
年 5 月 12 日 指定) 神武寺周辺の山地は、海底に堆積した泥
砂が凝固した堆積岩(三浦層群)が隆起して形成された。渓谷の
斜面や切通しなど、岩肌の露出した日陰には、独特な植物が生育
し、これらの植生を岩隙植物群落という。

特に、神武寺境内では、コモチシダ、イワトラノオ、ミツデウラボ
シなどの羊歯植物や、これらのシダ類に類似した生き方をするイ
ワタバコが常に生育し、この群落を特徴付けている。

この群落は、乾燥しやすく水の確保が難しい環境下で、岩隙か
らにじみ流れる成分で生活しており、このような特殊な環境は、三
浦半島では、大変稀少である。

神武寺周辺の貴重な植物の保護に、ご理解と協力を!! 逗子市
教育委員会。とある。



神武寺境内で観られる地層露頭。

神武寺周辺の山地は、海底に堆積した泥砂が凝固した堆積岩(三
浦層群)が隆起して形成されたという。 10:06 ここは 83m。晩鐘
が美しいとある。



晩鐘と本殿。(L)晩鐘。(R)本殿。

10:10 本殿／h95m。



本殿へ。(L)医王院とある山門から入る。(R)本殿。

鷹取山の案内表示確認しながら歩を進める。1027 横浜横須賀
道路のトンネルの真上あたり行く



(L)神武寺・鷹取山ハイキングコースの案内標柱。

(C)横浜横須賀道路のトンネル真上辺りか。

(R)横浜横須賀道路のトンネル真上辺りか。

尾根の植物、ムラサキシキブ



ムラサキシキブ

10:34 貝山線 45 東電藤沢支社送電保守グループ鉄塔下通過した。



1038 切通し岩の間隙通過した/h120m



岩の間隙通過

1040/h125m 二子山スナップ
尾根の南が開けた！



10:41 すりりを味わう鎖場通過した。



鎖場通過

鎖左から場を振り向く！急傾斜の鎖場！鎖場の地層を観る！
尾根から右への巻道があり、真上に頂上が見えた！
右への巻道を行かないで急坂を直登した。



急坂を直登した！

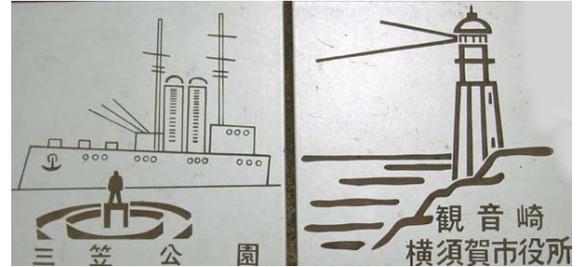
1053 鷹取山・展望台 p139m/h1100



頂上から先ず南西を観る！ 葉山町の上二子・下二子・阿部倉山
が先ず眼に止まった。手前に横浜横須賀道路が観えた。



頂上から先ず南を観る！ 三笠公園や観音崎が観える。



足元の展望台の案内を観る

西方を観ると



江の島の南に富士山が見える筈であるが今日はガスってだめ！



江の島の南に富士山が見える筈であるが今日はガスってだめ！



新緑で美しい山頂からの展望

石切場を観察~1120 1120/h110m 急坂下る 1125 磨岩仏
参拝



磨岩仏参拝

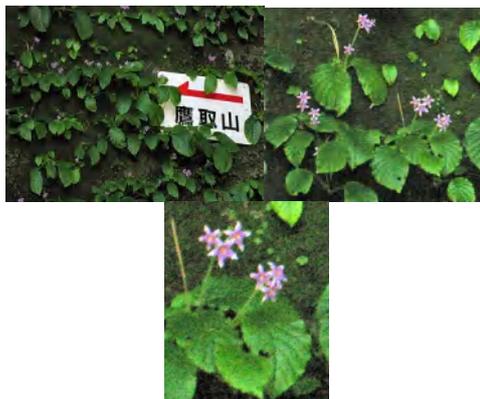
ロッククライミングを観る。



ロッククライミングを観る！頂上真下でロッククライミング。分岐点にて



神武寺◇展望台付近で！
神武寺◇展望台！、シロバナホタルブクロが可憐！。



磨岩仏過ぎた辺りの凝灰岩絶壁に咲くイワタバコを観察！
鷹取山への案内板のある絶壁に咲くイワタバコの大群落！そのイワタバコをアップ！

- 1132 上下水道局施設前通過／h70m
- 1136 磨岩仏・鷹取山登山口を振り返り返った。
- 三角公園で昼食休憩 1218 再出発
- 1243 追浜駅着／h10m 帰途に付く。

(20150327)記

報告

鹿沢 山荘訪問記—AGC クラブハウスの可能性—

近藤 善則

雪山賛歌発祥の地として知られる群馬県嬭恋村・鹿沢温泉の林間に「鹿々山荘」(ろくろくさんそう)というこじんまりとした山小屋がひっそりと建っている。東大の山とスキー好きの有志が共同で建てた小屋で、かれこれ 40 年以上経過している。

所有者は皆高齢になり、最近ほとんど使われなくなった。そのためこのほど全ての権利を、この土地の所有者、旧鹿沢温泉の「紅葉館」に返却することになった。本来ならば更地にして返却すべきだが、紅葉館の好意により現状のままの姿での撤退となっている

紅葉館としても、この先用途の計画があるわけではなく、このまま朽ち果てるのを待つだけであるため、どなたか使ってくれる方がいれば、いいのだが・・・という状況であった。

もしかして AGC のクラブハウスとしてつかえないだろうか・・・との話から、とにかく一度山荘をたずねてみようとの今回の訪問となり、有志3名(大西、渡辺、近藤)が東御市側から地蔵峠経由で向かった。

まず紅葉館の小林夫妻に今回の経緯や現況をお聞きし、いまのところ全く予定は無く、返却されたままの状態であることを確認、主人の案内で山荘に向かう。

国道から角間峠に向かう登山道を少し進むと左側に屋根が見える。いったん沢に下り小さな池の先に山荘がある。外観からはほとんど痛んでいるところはなく、すぐにも使える状態だ。



1 階のメインルームは 12-3 帖ぐらいだろうか。灯油ストーブの廻りに作りつけのテーブル。棚には書籍がそのまま残されていた。



すぐ横に厨房があり炊事道具などは全て揃っている。水源の水は豊富なので、冬季は出しっぱなしにしているという。トイレは簡易水洗。

中 2 階と、2 階に和室。やや湿気で痛んでいるのが気になる。多い時で 14-5 人が使用していたとの主人の説明。主にスキーの合宿に使うことが多く、入口なども一段高くなっており、玄関脇に乾燥室なども備わっていた。

鹿沢は冬季、積雪量はさほど多くはないが雪質はとても良い。そのため気温が低く、凍結対策が欠かせない。特に常駐していない小屋などは入退荘時、厄介な作業を伴う。使いなれていないとなかなか簡単にはいかないようだ。この点は高齢者が多いと難しい問題かもしれない。

今回は現況を知るために訪問したが、クラブとしてこのような施設を所有することの是非、保守管理していくことができるか？等々。問題点も多いのですぐに結論が出ることもない為しばらく検討課題としたい。

みなさんの意見を是非お寄せください。

行ってきました

0メートルを訪ねる

近藤 善則

海拔と標高の違い

日本の山の標高は東京湾の平均海面を0メートルとした水準原点からの高さです。海拔は平均海面(等重力ポテンシャル面)を地上部に延長した基準面(ジオイド面)から計るため、厳密には値が異なります。

この平均海面を計ることを験潮といい、験潮所(海上保安庁)、検潮所(気象庁)、験潮場(国土地理院)とそれぞれ名称が異なるのですが、これらの施設は全国で23機関144施設あるとされています。

地図の標高を示す日本の水準原点は、以前訪問したことのある国会議事堂前庭にあり、そのときの標高は24.4140mでした。この標高値は、現在三浦半島の油壺験潮場で測定されている平均海面からの高さですが、その数値は過去に何回か修正され現在に至っています。

明治6年に霊岸島に設置された水位観測所からの水位で24.5mが水準原点の標高と定められましたが、関東大震災の影響などで改訂を経て、また東京湾の埋立や隅田川の河川の影響があるため、霊岸島から油壺に移され、現在の値は2011年から24.39mとなっています

水準原点の標高 1891年: 24.5m → (1923年 関東大震災): 24.4140m → (2011年 東日本大震災): 24.39m と地殻変動により改訂されている

二つの験潮場を訪ねる

5月20日(水)八丁堀に集合したAGC8名は好天に恵まれる中霊岸島に向かう。といってもそのような島があるわけではなく現在は中央区新川という地名で江戸初期の霊巖寺に由来する島が、埋め立てにより陸続きになったところ。住所は消滅したが島名は残されたようだ。

現在東京湾水位観測所となっている所が最初の目的地 霊巖寺・験潮場跡だ。隅田川護岸口に特徴的な三角錐のアンクルがあるところが観測所になっている。海面から突き出た支柱の側面の目盛は約1mを示していた。逆三角錐の3つの支柱が交わる点が0メートルだそうだ。これから潮は満ちてくるのか引いていくのか? 満干時間の確認をしておけばと悔やむ。

公園となっているテラスの先、中央大橋という特徴的な橋の手前に一等水準点がある。「交無号」すなわち水準路線が交差する点であり0番目(出発点)の水準点である意味をもつ標石である。水準測量はここから始まった訳だ。



霊巖島水位観測所



水位を示す目盛



交無号水準点

次に 亀島川水門を眺めながら南高橋を渡る。明治時代のめずらしいトラス橋として区の文化財となっているが、なかなか厚重な橋で見飽きない。

宝町から都営浅草線経由で京急・三崎口へ。さらにバスで三崎港へ向かう

昼食はやはり“三崎まぐろ”だろう。手ごろな割烹料理店でまぐろ料理に舌鼓。箸袋の4種類のまぐろ説明(メバチマグロ、本マグロ、ミナミマグロ、キハダマグロ)に話題が盛り上がる。

関東ふれあいの道 神奈川県コース②油壺・入江のみち(3.4km)に沿って油壺に向かう。ほとんど車道を歩くことになるが、漁港の風景や入江の緑に癒されながら、いつもの山の風景とは異なる自然の匂いを微妙に感じながら歩くのもたまにはいいものだ。

油壺バス停先の験潮場入口から海面に向かい、少し下ったところに基準水準点 No26 があった。コンクリートの蓋の下に標石があるのだろう。柵に囲まれて確認することが出来なかったが、全国に83点あると説明板に書かれてあった。その先海面すれすれに験潮場の小さな建物がある。外側からの見学のみだがレンガ造りで雰囲気は水準原点に似ていた。新旧の0メートルを体験することができたことになる。油壺湾はその名の通り浪静かな動きの全くない海面で、三浦一族の血なまぐさい逸話が示すとおりのところと想像でき、なぜか霊巖島との言葉の響きの繋がりを感させた所だった。



基準水準点 No26



油壺験潮場

さらに荒井浜から胴網海岸の岩礁地帯を歩き、再び油壺のバス停へ。途中磯浜で小島誠氏による吟詠「山を讃する文」(小島烏水)に聞き入る。潮騒をバックミュージックになかなか趣のある光景であった。三崎口駅で解散の前に「ちよいと一杯」の看板に吊られて反省会?。最近注目されてきた一つの水系がそっくり自然のまま残されているという「小網代の森」は次の機会の楽しみということになった。

参加者8名(北野、今井、大西、小島、鶴田夫妻、高田、近藤)



小網代の森 俯瞰(左上が油壺湾)

AGC レポート vol-54 2015年7月15日発行
 発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
 編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com